

令和5年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

中学生の部 可児地区更生保護女性の会 会長賞

「一人一人の大切さ」

可児市立西可児中学校 3年

林 紗那

私は、今住んでいる場所、地域、学校が、大好きです。団地内を歩いていると「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と言ってくれる近所のおじいちゃんおばあちゃん、いつも話しかけてくれるたくさんの人達…。なぜこんなにも私の周りは明るいのでしょうか。

私のクラスは今、とても明るいです。4月初め頃のクラスは、みんな落ち着いているように見えました。まだ私も緊張していたり新しいクラスへの心配もあったりして10分休憩の時は、前のクラスの友達に会いにいくほどでした。しかし、これは私だけでなくクラスのほとんどの人が、こんな過ごし方をしているように見えました。今、私のクラスが楽しいと思えるほど明るいのは時間が経つにつれクラスの雰囲気が良くなったからです。雰囲気が良くなったのはだんだんと一人一人が個性をだしていったことだと私は思います。私が安心して学校に行くことができるのは、クラスが個性豊かで居心地がいいからです。「明るい社会」とは、このように個人個人が個性を開放していくことを指しているのではないのでしょうか。

一人一人の表情が豊かになったことで、クラスの雰囲気はとても活気であふれています。四月のころと比べても、自分が学校へ行くことの楽しみ方は変わっていると思います。私はこんな経験から、個人が明るく生活していくためには「人と人との関わりを大切に、自分らしさを見せていく」ということを心にとどめています。

一方で、私の地域というまとまりじゃなくて日本、または世界としてみたときにテレビで犯罪や非行などのニュースが後を絶たないというのが現状です。私は、犯罪のない明るい社会にするには、みんな平等である、人と人との関わりが人と社会を組み合わせる柱だと思います。

私は学校生活だけでなく個性を開放するのは大切だと思うけど、それがすべて前向きな矢印に向かっていくとは思いません。個性にも相性があるからです。自分と相手の考え方や感じ方が違うと、もちろん揉め事が起きたり、ときには犯罪に発展してしまったりすることだってあります。

犯罪は、なにかきっかけがないと起こりません。しかし、そのきっかけをうみ出しているのが私たちの行動や言動だと思います。このきっかけをつくっていかないために、私は2つのことが必要だと思っています。1つは、みんな同じ人間という仲間を見捨てないことです。仲間がひとりもいなくて孤独を感じている人が居れば、その不安から犯罪や非行を行ってしまうのではないのでしょうか。それを改善していくためには、一人を感じさせない空間をつくるのが大切です。私の団地では、すれ違った人に挨拶をしている人がたくさんいます。私は近所の人に挨

挨拶をされたとき、まるで家に帰ってきたのを迎えてくれたように感じました。みんなが私のことを仲間とってくれていると思えたからです。仲間を見捨てないためには、人と人との温かい関わりが大切です。私の団地みたいに挨拶を日常的にしたり、互いに助け合ったり、逆に助けてもらったりすること。これが社会を明るくする第一歩だと思います。

2 つ目は、自分の持ち味を生かすことです。自分にはできて他人にはできないことなんて数えきれないほどあると思います。また自分にはないものを他人から奪うのではなく、みんなで協力することが大切だと思いませんか。もちろん自分の考えと他人の考えが食い違うことだってあると思います。でも私はそれがチャンスだと思っています。なぜなら自分の考えと異なった視点があることで、その考えを深めることができると思うからです。いろいろな意見が合わさることでより明るい社会ができていくと思いませんか。

私は、自分の団地のように一人一人の関わりがあり、みんなが幸せに暮らしていくのを世界全体へと広めていきたいと思っています。社会を明るくしていくために私は、誰か一人でも幸せになれるような人と人をつなぐ架け橋になっていきたいです。